

平成 23 年 8 月 8 日

各位

会社名 アンジェス MG 株式会社  
代表者 代表取締役社長 山田 英  
(コード番号 4563 東証マザーズ)  
問合せ先 経営企画部長 鈴木 文彦  
電話番号 03-5730-2480

**ジェノラックとアンジェスが共同開発基本合意  
－HPV 治療用ワクチンの開発－**

当社は、この度、株式会社ジェノラック BL（以下、ジェノラック）との間で、子宮頸がんの前がん病変に対する HPV（ヒトパピローマウイルス）治療用ワクチンの開発を目指して、共同開発基本合意にいたしましたのでお知らせいたします。

子宮頸がんの発生にはその多くが HPV の感染が関連し、患者さんの 90%以上から HPV が検出されている事が知られています。子宮頸がんは異形成という前がん状態を経てがん化することが知られており、前がん状態の細胞を検診（細胞診検査）で見つけることができます。この前がん状態は、がん化のリスクが高い高度異形成と軽度および中等度異形成があり、前者は早期がん治療として外科的な治療を行なうことが一般的ですが、現在のところ治療薬はありません。また、後者は外科的な治療は行わず、経過観察を行うのが一般的ですが、がんになる恐れもあり、有効な治療薬が望まれています。

ジェノラックの HPV 治療用ワクチンは、高度異形成、及び中等度異形成の細胞に発現する HPV の E7 タンパク質を標的にした免疫誘導型の治療ワクチンです。この治療ワクチンは、子宮頸がんの早期発見のための検診が浸透していく中で、まさに治療薬の求められてきた前がん状態の異形成段階に対する有望な治療薬にあたり、患者様の大きなニーズを満たすワクチンです。

本ワクチンは、ジェノラックが韓国バイオリーダースから導入している世界的な乳酸菌ディスプレイ技術を利用し、乳酸菌をキャリアーとした安全な経口剤タイプとして開発されており、既に東京大学のグループにより臨床研究が実施され、ヒトでの有効性と安全性が確認されています。

当社は、ジェノラックの HPV 治療用ワクチンを高く評価し、全世界に 4,000 万人 (WHO) とも言われている子宮頸がんの前がん状態の患者さんのために、この画期的なワクチンの本治療薬開発に参画し、早期上市に向けたジェノラックと緊密な協力体制を構築していく予定です。

尚、本件による本年度業績への影響はありません。

【ご参考】

会社概要

社名： 株式会社ジェノラック BL  
本社： 沖縄県那覇市字小禄 1831 番地 1 沖縄産業支援センター  
代表者： 代表取締役社長 瀬脇 智満  
設立： 2001 年 10 月 16 日  
資本金： 1000 万円  
従業員： 10 人（2011 年 3 月現在）  
事業内容： 医薬品開発

－ 用語の解説 －

HPV（ヒトパピローマウイルス）

パピローマウイルス科のDNAウイルス。乳頭腫ウイルスともいう。閉環の二本鎖DNAをゲノムとしてもつ。

以上